

第6・7学年「うぶやま学」学習構想案

日 時 令和7年7月3日（木）第5校時
 場 所 産山村立産山学園 メディアルーム
 指 導 者 教諭 ○○ ○○

1 題材の構想

題材名	子どもヘルパー活動～第2回目の訪問活動のミッションを設定しよう～		
題材の目標	(1) 産山村の高齢化や社会福祉の現状を理解し、その在り方や課題について考えたり、自ら社会福祉の取組を構想したり、実践したりすることによって、地域の一員としての自覚を深め、村民のウェルビーイングの向上に寄与する。 (2) 産山村の現状から、自らのミッション（使命）を感じ取り、主体的・対話的で深い学びを通して、これまで積み重ねてきた学習や経験とともにマネジメントしながら、サービス・ラーニングとしての学びとし、将来を担う人材の育成を図る。 (3) コミュニケーション能力、未来思考力及び計画実行力を段階的に育成する。		
題材の評価の観点	① 学習方法に関すること	② 自分自身に関すること	③ 他者や社会とのかかわりに関すること
	ア 課題解決のための情報を収集し分析することができる。 イ 学習内容を分かりやすくまとめ表現することができる。	ア 自らの行為について意思決定することができる。 イ 体験や学習を生かし自らの生活のあり方を考えることができる。	ア 他者と協同して課題を解決することができる。 イ 課題解決に向け産山村の活動に参加することができる。
題材終了時の学習者の姿（題材のゴールの姿・期待される姿）			
「子どもヘルパー活動」の事前学習や訪問活動を通して、産山村の社会福祉の現状を理解し、その在り方や課題について考えたり、社会福祉の取組を構想したり、実践したりすることで、産山村の一員として、村民のウェルビーイングの向上に寄与しようとする児童生徒。			
題材をつらぬく学習課題		本題材で働かせる見方・考え方	
村民（支援者）の方々がウェルビーイングを維持・向上させるために、地域の一員として自分にできることは何だろう。		産山村の社会福祉に関わる取組や人々の思いを捉え、地域の一員として自分がどのように村民にかかわっていくのか、自分にできることについて考えること。	
指導計画と評価項目（6年13時間取扱い、7年15時間取扱い 本時6／13、6／15）			
過程	時間	学習活動	評価項目
一	1	○子どもヘルパー活動の年間の活動を見通す。 ○地域の方とアイスブレイク活動を通して交流を深める。	③-イ（行動観察・ワークシート）
二	1	○訪問活動に向けて民生委員や社協の方と交流を深め、支援者の情報を交換する。	③-ア（行動観察・ワークシート）
	1	○研修会を通して、高齢者と上手にコミュニケーションとるためのポイントを学ぶ。	③-イ（行動観察・発表・ロイロノート及びワークシート記述）
	2	○支援者の家を訪問して、支援者とのコミュニケーションを深める。（第1回訪問） ○支援者とのコミュニケーションを通して、相手の状況をつかむ。	③-アイ（行動観察・支援者の感想・ロイロノート及びワークシート記述）
	1 （本時）	○第1回訪問をふり返り、次回の訪問の見通しを立てたり、ミッションを設定したりする。	①-アイ ③-イ（行動観察・発表・ロイロノート及びワークシート記述）
三	1	○前時でたてた見通しやミッションを達成するための訪問計画をたてる。	①-ア（行動観察・ロイロノート及びワークシート記述）
	2	○支援者の家を訪問して、円滑にコミュニケーションをとりながら、支援者のニーズに応じた活動を行う。（第2回訪問）	③-アイ（行動観察・支援者の感想・ロイロノート及びワークシート記述）
	1	○第2回訪問活動をふり返る。 ○支援者の方々への年賀状を作成する。	①-アイ（行動観察・発表・ロイロノート及びワークシート記述）
	2	○2回の訪問活動を通して成果と課題を分析し、分析したことを表現する。	②-アイ ①-アイ（行動観察・発表・ロイロノート及びワークシート記述）

四	1	○訪問活動や学習を生かし、自らの生活のできる福祉のあり方を考えることができる。 ○子どもヘルパー活動報告会に向けた練習をする。	①-イ（行動観察・発表・ロイロノート及びワークシート記述）
	1	○子どもヘルパー活動報告会でこれまでの学習の成果や課題及び来年度のミッションを相手意識をもって発表する。	①-イ（行動観察・発表・ロイロノート及びワークシート記述）
	1	○支援者の方々へのお礼の手紙を作成する。	③-イ（行動観察・手紙の内容）

2 題材における系統および学園生の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）					
<p>小学校学習指導要領第1の目標を受け設定した本校のうぶやま学の目標「自分たちが住む地域への関心と理解を深め、情操を豊かにするとともに、多様な学習活動を行い、産山に誇りを持ち、将来の自己の生き方を考える学園生を育成する。」をもとに、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を設定し、題材を構成している。</p>					
教材・題材の価値					
<p>「うぶやま」の人と人との温かい交流（子どもヘルパー活動）を通して、人としての生き方の基礎を培うとともに、「うぶやま」やそこに住む人々を大切に、「うぶやま」に貢献しようとする心情を培うことを重点的なねらいとする。</p> <p>子どもヘルパー活動の学習では、Plan（産山村の福祉の中に課題を見つけ出す・自分の知識や経験を活用して課題解決に向けた構想を考える・他者と協働的に吟味し、地域にとって価値のある計画を生み出す）Do（計画を遂行、表現及び実践する）Check（評価する・振り返る）Action（成果の継続・課題の解決）といったPDCAサイクルをもとにした学習を展開する。4年生から7年生までの4年間、学年の発達段階に応じた内容で、このヘルパー活動を行う中で、①コミュニケーション能力②未来思考力③計画実行力の三つの資質能力を段階的に育成していくことが期待される。</p>					
本題材における系統					
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【4年】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【5年】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【6年・7年】</div> </div>					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもヘルパー活動任命式（※4年生への感謝状授与／学園生代表の決意表明）</div>					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域介護予防活動「ゴールドクラブ」訪問</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">認知症サポーター養成講座</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ほっと館との事前研修・計画」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">デイサービス「ほっと館」訪問</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">高齢者とのコミュニケーション講座</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">支援者宅訪問1回目計画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">支援者宅訪問(1回)</div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">支援者宅訪問振り返り・2回目計画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">支援者宅訪問(2回)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">支援者宅訪問の成果と課題まとめ</div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもヘルパー活動報告会・感謝状授与式（※7年生への感謝状授与／7年生の活動報告）</div>					
学園生の実態（題材の目標につながる学びの実態）					
■令和6年度12月実施 I-check 結果から（全国高定率との比較 △オーバー、＝平均、▼アンダー）					
項目	質問内容	学年	比較	肯定率（本学園）	肯定率（全国）
社会参画	お祭りボランティア活動など、地域の行事に参加していますか。	6年	△	100.0	70.6
		7年	△	100.0	70.6
思いやり	小さい子やお年寄りが困っている時は、迷わず手助けしていますか。	6年	△	85.7	74.6
		7年	△	84.6	73.3

発信力 1	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言していますか。	6年	△	85.7	66.2
		7年	△	92.3	63.0
発信力 2	学校の授業で何回ぐらい自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりしていますか。	6年	△	85.7	46.8
		7年	△	84.6	38.5
対話 話し合い	グループで話し合う授業は楽しいですか。	6年	=	85.7	86.0
		7年	△	100.0	86.0
意思決定	次に何をすべきかを自分なりに判断して行動していますか。	6年	△	100.0	82.6
		7年	△	84.6	82.9

■令和6年度熊本県学力学習状況調査結果（国語）から

項目	質問内容	学年	比較	肯定率（本学園）	肯定率（全国）
文章を 書く	自分の意見を明確にして書いている。	6年	△	66.7	61.4
	自分の意見とその理由を明確にして書いている	7年	▼	84.6	89.4
	予想される反論とそれに対する意見を書いている。		▼	38.5	54.5

■考察

（資質・能力に関して）本村は規模が小さいため、子どもが大人に交じり地域活動に参加する機会が多い。また、本村では「地域と共にある学校」づくりを推進しており、保育園、そして産山学園の教育活動においても、地域の多くの方が参画しており、多様な体験活動等に親しんでいる。そのような活動を行っていく中で、子どもたちは地域の方との豊かなかかわりが生まれ、自然と「自分の心」を耕していっていると推察する。

学習においても、日ごろから主体的な学習を促すための「うぶやま型学習」を取り入れており、課題に対して自分で考えたことをペアや小集団の中で学び合いながら解決している。学級の人数も少ないことから、学級内で自分の意見を発表することも抵抗感なく行えている。

ただ、自分の意見を根拠を明確にして書いたり表現したりすることについて課題が見られ、苦手としている児童生徒もいる。また、発表に対し、抵抗感を持っている児童生徒も若干名いる。

3 指導に当たっての留意点

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

【柱① 実態分析をもとにした授業改善の視点から】

重点1 自力で情報を取り出す力を育む…より精度の高い振り返りから新たな Action（課題解決意欲）へとつなげる授業づくり

- 第1回目の訪問活動のミッションである「お互いのことを知り、話の世界を広げよう」の達成度を振り返らせる際、定量的なデータ（一人一人の自己評価：4段階の全体平均値）を提示し、また、訪問活動時の支援者の方々へのインタビュー動画を見せる。これらを提示することで、支援者の方とのコミュニケーションが深まったこととお互いのことを概ね知ることができ、話の世界が広がったことを分析させるようにする。
- 第1回目の活動ミッションが学園生の頑張りにより概ね達成できたことを教師からしっかり評価し、第2回目は新たなミッションを設定し、さらに支援者の方々を満足させてほしいという願いを話し、児童生徒が課題意識をもてるようにする。

重点2 「まとめ」で自分の学びを確認する…「学んだこと」を自分の言葉で明らかにする授業づくり

- 外部人材の活用の際に、本時で児童生徒に気付かせたいポイント等について、事前に講師と共有しておくようにする。
- 課題と照らし、ペアや全体で学びを深めたことや講師からアドバイスしていただいたことをもとに、再度第2回目のミッションや留意点を見直すことで学習のまとめとする。

【個人テーマ ～ 得られた情報を分析し、根拠を元に表現する力の育成を目指して ～】

- 第1回目の訪問活動で相手のニーズを聞き出す質問などを事前に考えることで2回目の訪問活動で新たなミッションを考える意義をさらに高めていけるようにする。
- 2つのグループを1つにして交流させることで、異なる訪問場所でのミッションを知り、自分の訪問先の参考になるようにする。

【人権が尊重される授業づくりの視点から】

- ※ペアや全体で学び合う活動では、自分の意見が反映されるよう、常に支持的風土を醸成する。
- ※訪問活動内容を考えたり、実際に訪問活動を行ったりする際は、自分たちだけの考えによらず、常に訪問する支援者のことを第一に考え、相手意識をもって活動を行わせるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 第2回目の訪問活動で、支援者の方々にもっと満足してもらうためのミッションや作戦の設定を通して、相手の気持ちや状況を踏まえ、支援者のウェルビーイングの向上につながる活動にするための留意点について考えようとしている。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
う	10分	1 第1回目の訪問活動を振り返る。 ①第1回目の活動で支援者とコミュニケーションが深められたかを振り返る。 ◇ある程度深められたと思う。 2 本時の課題をつかむ。 ②自己評価や感想動画から課題を捉え、本時のめあてをつかむ。 ◇お互いのことはある程度知ることができた。 ◇コミュニケーションをとることを意識していたが、何に気をつけると支援者をもっと満足するだろうか。	○最初に意図的指名を通じて生徒の反応を見る。 ○次に生徒全体の自己評価データと訪問活動時の支援者の感想動画を見せることで、コミュニケーションの深まりを実感させるようにする。 ○学園生が設定したヘルパー活動のミッション「お互いのことを知り、話の世界を広げよう」も概ねクリアできたことを教師側から評価する。 ○もっと満足させるためにクリアできたミッションのままで活動していいものかを問うようにする。
		【学習課題】 2回目の訪問活動で支援者の方々の求めること（ニーズ）に応えるためには、どうすればよいか。	
ぶ		【めあて】 2回目の訪問活動のミッションを設定し、支援者の方々をもっと満足させる作戦を立てよう。	
や	30分	3 課題の解決に向けて活動する。 ①自分の考え（ミッション）をロイロノートにまとめる。 ◇「〇〇さんを笑わせよう大作戦！」 ②自分の考えをペアで伝え合い、具体的な作戦を考える。 ◇〇〇さんが助かることをして、〇〇さんを楽しませる。 ◇〇〇さんは「〇〇が好き」と言っていたので、前半はその好きなことをたくさんする時間をとる。 ③ペアの考えを紹介する。 ◇コミュニケーションが楽しめるようなゲームは前半に必ず一つは入れるようにする。後半は〇〇さんが掃除に困ってそうだったから、窓拭き活動を入れて手助けしたい。 ◇草むしりができないと言っていたので、まずは草むしりをして〇〇さんを手助けしたい。後半は一緒に楽しめるゲーム活動をする。	○ミッションについてのみ一人で考えさせる。なぜそのミッションにするのかその根拠を明確にさせる。 ○ミッションについてはペアで統一したものを設定させる。具体的な作戦については、協働して考えさせる。 ○ペアでの話し合いを促し、特に作戦がうまく考えつかないペアを支援する。 ○全ペアの考えを電子黒板上で視覚的に共有する。 ○支援者の状況を察して作戦を立てているペア2組に意図的に発表させる。
		【具体的評価規準】 支援者の方々にもっと満足してもらうために、自分たちができることを考え、積極的にヘルパー活動に参画しようとしている。（方法：ロイロノート・発言・行動観察）	
ま	10分	4 課題解決に向けて GT の助言を聞く。	【到達していない児童生徒への手立て】 ○第1回目の活動を通して支援者のことで新たに気付いたことを想起させる。 ○助言内容については、①支援者の方々は学園生が話し相手になるだけで満足されること②加えて本人が望まれていることや本人が手助けしてほしいと思っていることをさりげなく行ってほしいことを社協事務局長及び民生委員・児童委員会長から1点ずつアドバイスしていただく。
		【まとめ】 第2回目の訪問活動で、支援者の方々にもっと満足してもらうためには、相手が困っていることや好きなことなど、相手の状況や気持ちを考えた活動を設定する。	
終末	10分	◇ミッションは「支援者が好きな活動や困ったことが解決できるような活動をして満足度を高めよう」にしよう。 ◇相手のことを思う気持ちがやっぱり大切だと感じた。2回目はただ楽しむのではなく、相手が心の底から満足するような活動としたい。	○相手の状況や気持ちを考えるという視点に気付いた児童生徒のまとめや振り返りを意図的に紹介し、共有する。 ○本時の学習の様子から、2回目の訪問活動に対する児童生徒への期待を伝え、更なる意欲付けを図る。

板書計画

う

【学習課題】2回目の訪問活動で支援者の方々が求めること（ニーズ）に応えるためには、どうすればよいか。

【めあて】2回目の訪問活動のミッションを設定し、支援者の方々をもっと満足させる作戦をたてよう。

や

- ミッションや作戦のキーワード
 - ・笑顔になる ・助かる
 - ・好きなこと ・一緒に
 - ・困っていること ・相手意識

ぶ

※電子黒板画面上で共有

ミッションと作戦			
生徒1	生徒2	生徒3	生徒4
生徒5	生徒6	生徒7	生徒8
生徒9	生徒10	生徒11	生徒12

ま

【まとめ】
第2回目の訪問活動で、支援者の方々にもっと満足してもらうためには、相手が困っていることや好きなことなど、相手の状況や気持ちを考えた活動を設定する。

ICT 活用計画

教師による教材提示の計画、ICT を活用した発表、まとめ等による考えの共有等の計画

- 導入時に前時の自己評価結果をデータで示すことで、前時の活動の達成度が把握できるようにする。
- 導入時に前時の支援者への感想インタビュー動画を示すことで、支援者の満足度を把握し、「支援者をもっと満足させる」という次時の活動意欲が喚起できるようにする。
- 自分の考え及びペアの考えをロイロノート提出箱に提出させ、提出箱の状況を電子黒板上に写し出すことで、相互の考えを共有できるようにする。